

普及センター技術情報

※「農業」には酪農以外も含まれます。

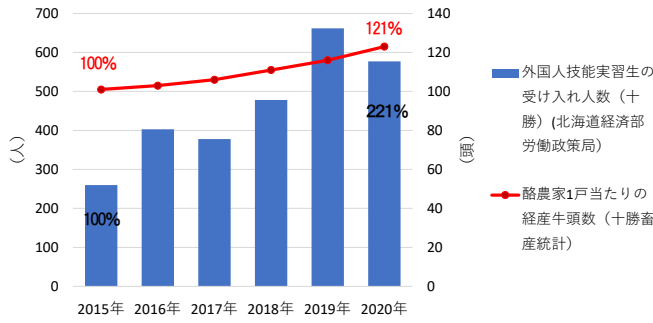


図1 十勝管内の農業に携わる外国人技能実習生の受け入れ人数および酪農家1戸当たりの経産牛頭数の推移

外国人技能実習生の受け入れ体制を整備し、農作業事故を予防しましょう

農場の規模拡大に伴い、外国人技能実習生(以下、実習生)の受け入れ人数が増加しています(図1)。実習生の多くは酪農に関する知識や経験がほとんど無く、言葉や文化が異なります。声かけの遅れや一瞬の不注意により農作業事故につながるリスクがあります。日常作業に潜む事故のリスクについて理解を深め、予防に向けた対策を行いましょう。

- 酪農における事故率の高い作業は「搾乳作業」と「牛追い作業」で、とくに牛に「蹴られる」、「踏まれる」、「挟まれる」ことによる怪我が大部分を占めます。牛の行動は環境や状況によって変化するため、経験の浅い外国人技能実習生に伝えるのは難しいでしょう。農場に備えられた安全対策や事故を予防する技術を伝え、実習生の安全を確保しましょう。
- つなぎ飼いや牛舎における搾乳作業について
 - つなぎ飼いや牛舎では、「牛の乳頭を布きんで拭いていたところ、牛が急に足を上げてきたのでかわしたが、体制を崩し右手をついた。その右手に牛の足がのっかり右薬指を負傷した。」や「作業服(つなぎ)の股下を牛に踏まれ、両膝に負荷がかかり足を骨折した。」などの事故が発生しています。
 - 搾乳作業の基本姿勢についてポイントと目的を伝えましょう(写真1)。
 - 尻尾が目に入らないよう、つば付きの帽子をかぶる
 - 牛に踏まれても軽傷で済むよう、安全長靴を着用する
 - 驚いた牛に蹴られないよう、近く前に合図する(声かけ)



写真1 つなぎ牛舎における搾乳作業の基本姿勢

- パーラー施設における搾乳作業について
 - パーラー施設では「乳頭清拭の際に顔を近づけて作業し、牛に顔を蹴られた。」、「牛追いの際、牛と牛・パイプと牛に挟まれて骨折した。」などの事故が発生しています。牛の行動について学ぶとともに、研修開始時は施設の特徴と安全装置の意味を伝えましょう。
- 【搾乳作業】
- バーより前に顔を出さない(腕を伸ばして作業する)(写真2)。
 - 牛を追う際は大声を出さない。
 - 牛が急に動く可能性を伝える。
 - (待機場など)安全な場所と危険がある場所を説明する(写真3)。

- 牛が安心するため体はなるべく近づける、搾乳中も触れ続けると良い
- 牛が急に動いたとき逃げられるよう、膝を立てた姿勢で作業する

マンパスの設置場所を伝える

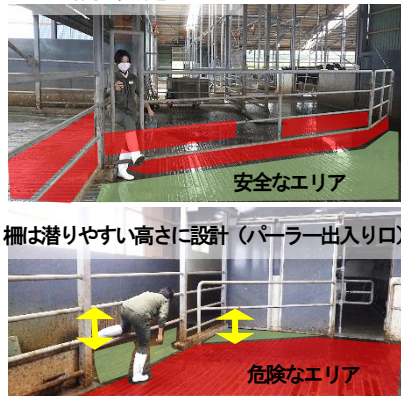


写真3 待機場での逃げ道

事故のリスクは日常作業に潜んでおり、急いで作業をしている時、暑さで注意力が低下している時、作業メンバーが交代した時などの要因が重なり、事故発生につながります。日頃から余裕をもって作業することを心がけましょう。

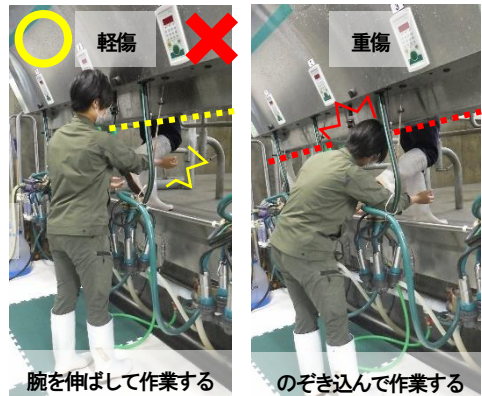


写真2 パーラー施設における搾乳作業の基本姿勢

了